



広島

運転の負担 敷物で軽減

自動車の内装品を製造するすぎはら(広島市安芸区)の杉原滋社長は「フロアカーペットを造る技術は第7世代に当たる」と誇る。マツダが国内生産の全車に採用する主力製品。エンジン音がしない電気自動車(EV)の普及も見据え、改良を重ねる。

製造を始めた約60年前は1枚ずつ縫っていたが、複数の層の一体成型など生産効率を高めてきた。「震動や騒音、寒暖差をカットすれば、ドライバーや乗員の疲れを軽減できる」。素材から開発し、表面の風合いもコントロールする。

実際に車両に敷き、走らせながら性能を確認する設備も持つ。「EV化で変わる車体形状や音質に合わせ、最適な製品を提案したい」

(桑田勇樹)